

公表

事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援）

○事業所名	ライシャワー学園きこえサポートセンター		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○訪問先施設評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを理解し、保護者の気持ちに寄り添った支援が行われている。	「聴覚主導の人間教育」を基盤に親子の状況を共有し、すべてのスタッフが同じ思いで子どもたちに向き合っている。	専門的な療育や保護者支援を十分に受けられるような取り組みを充実させる。
2	それぞれの学校の状況に応じた訪問と相談・意見交換を行っている。	訪問の日時等については、保護者や訪問先と相談しながら行っている。	学校全体が聴覚障害への理解を深める活動を行っていく。
3	・専門的な支援が充実している。 ・聴こえの環境やロジャータ等の使用方法についての相談。	・オーディオロジータ部を含めたチームでのサポート体制。 ・実際に補聴器やロジャータが聴こえてくる音やことばの視聴の体験を実施。	診療所を開設することにより、教育・福祉・医療が一つとなつて、子どもたちを支えていく。 ・聴こえの環境作りのための相談の拡大。
4	・聴覚障害を理解していただくための取組	・見学や公開日等の実施	・より多くの方々に知っていただくための広報活動。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・インクルーシブが進む中、聴覚障害児教育を受けていない子どもたちへの支援の拡大。	・保育所から高校までの長期間の支援の充実。	・訪問員を増やす。
2	・本校の取組が知られていない。	・自治体等に対し聴覚障害児への支援の充実を訴えていく。	・広報活動やパンフレット等を各自治体等に持っていき説明する。
3	・進路についての相談を広げていく。	・入学受験等の時の様々な配慮について相談できる場を作る。	・生徒と保護者に学校の取組を理解していただく必要。